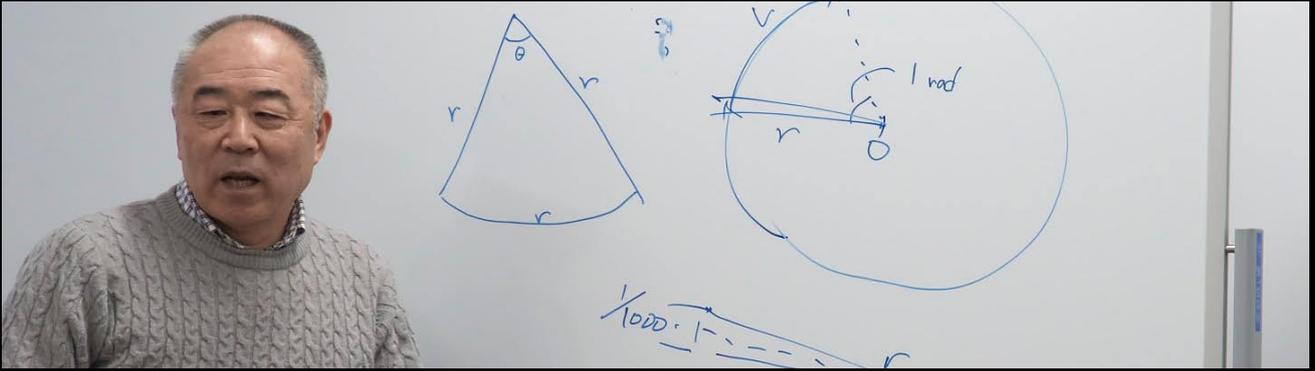


DIGITABLE 第 113 回勉強会レポート

2018年3月17日 於：江東区森下文化センター 第一研修室



館技術部長による「1 ラジアン」の講義

研究講座：「モノクロと印刷」：平野正志講師

“ライトニングトーク” 希望者各自3分

会員発表：「私のポートレート撮影の実際」：永富雪子会員

撮影技術講座⑥「撮影新技術の潮流」：高木大輔講師

DIGITABLE 写真技術研究会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digitable 研究講座「モノクロと印刷」

：平野正志講師

■何度も解説することになるが、通常のカラ画像に対してモノクロ画像がある。色のない明暗のグラデーションの世界は大変魅力的であるとする。

■カメラ RAW 現像の後、フォトショップの白黒レイヤーでモノクロ調整、R . G . B . C . M . Y . 各色での微調整を行い、好みの明暗の調整をする。

調整レイヤーの中にある白黒レイヤーには数種のプリセットも用意されているので試してみるとよい。



RAW 現像ではモノクロ化にグレースケールも用意されているがカラー情報はなくなるので後の微調整には向かない。

■フォトショップのプラグインでシルバーエフェックスというソフトがありモノクロ専用ソフトとして定評がある。

またフォトショップ以外のレタッチソフトでもさまざまにモノクロ化ができる。今回はACDseeでモノクロ化したもの、トーンニングも可能なのでシルバーエフェックスと比べてみる。



各種プリセットの画像比較と調整数値

■上記各種ソフトや調整の違いなどをサンプルプリントし見比べてみる。エプソンプリンターの印刷方法、カラー、モノクロの違い、RAW グレースケールと、RGB モノクロの違い、シルバーエフェックスの調整やトーンニング、ACDSee でのモノクロ、トーンニング。最後に後日また解説するダブルトーン印刷とも比較してみた。



シルバーエフェックスのトーンニング

エプソンプリンター印刷設定

参加者希望者による“ライトニングトーク”

IH 会員：ミピカシエルを使った撮影システム

SN 会員：CP+ 総括とデカフォト大阪展

TN 会員：1 ラジアン定義について…

会員発表：「私のポートレート撮影の実際」

永富雪子会員

笑顔のポートレートスタジオ WARAWOO を主宰している。写真は一人歩きする自分、新しい価値ある1枚への創造へ。写真による第一印象はあなたそのもの、あなたのビジネスへの広告写真とさえなり得る。あなたそのままが持っている魅力と豊かな表情の一瞬を捉えて創り出す一枚の写真。素のあなたの笑顔の瞬間、幸せの瞬間は伝播して行く。撮影はモノブロックストロボ3灯が基本だ…

撮影技術講座⑥撮影新技術の潮流 (Wi-Fi、Bluetooth 利用の撮影システム)：高木大輔講師

■撮影技術講座最終回、現時点で感じつつある、撮影技術開発の“潮流”とも呼ぶべきものについて言及しておく。従来からの機構的なカメラ自体の進化とは異なり、カメラの外側の撮影操作や写真の利用法と言ったユーザーインターフェイスを追求して、新しい写真の利用法を切り拓くシステムだ。代表例としてWi-FiやBluetoothといったネットや通信技術を最大限活用していくシステムを見ていく…

■カメラ Wi-Fi (スマートリモコン)

Wi-Fi を利用したカメラ操作と画像の確認で、従来から「リモート撮影」や「テザー撮影、(tether)」と呼んでスタジオ内で使われてきたものに対して、Wi-Fi を利用したものを「スマートリモコン」と呼ぶようだ。

これならケーブル接続もなく屋外でも使用可能で、自撮りや集合写真のときも手で構図を確認してから撮影出来るのはもちろん、明るさの調整や撮影モードの変更なども、カメラで操作せずにスマートフォンで設定可能になってきた。…

■スマホ・タブレットでオフカメラライティング

ストロボをカメラから離れた状態でもシャッターに連動して光らせることをオフカメラライティングと呼んでいる。以前からライティングを追求するプロやマニアの方には当然だったことだが、“インスタ映え”に代表される昨今のカメラ初心者への発信などに、盛んにこの言葉が使われるようになってきたようだ…

■ Godox A1

Godox 社製で iPhone と連携して使うことが出来るフラッシュ。リチウムイオンバッテリー内蔵ながら 110g の小型でフラッシュ + LED のハイブリッドな構成で iPhone の App と連携、更には 2.4G、433Mhz 通信も可能でプロ用のシステムのスレーブ発光も可能となるようで、iPhone でスタジオ撮影も可能になる…

実際に「A1」を使用して iPhone 等で撮影を行うには、アプリ「GodoxPhoto」を使用して iPhone 側でカメラ設定の制御を行う。明るさの調整は iPhone、iPad には絞りがないため ISO とシャッタースピードの調整を行う。ISO は 25 ~ 1800 となっていたが、最低感度の 25 を選択、シャッタースピードは 1/10 ~ 1/25 となっていて、ここは少しでもブレを防ぐために 1/25 を選択。尚、3 秒・10 秒のセルフタイマーが設定できるので、三脚使用の場合は利用するとよいだろう。

ホワイトバランスも「曇り」から「電球」までの 6 段階のアイコン + AWB から選択できるが、当然 iPad 内の画像エンジンで JPEG 化される訳だからと AWB で問題ないようだ…

DIGITABLE 写真技術勉強会 不許複製 (C) Digitable.info. 20180317 All Rights Reserved



SnapBridge を立ち上げ「リモート撮影」を選択すると「カメラと接続中…」の表示が現れる (通常数秒~十数秒)



Godox A1 でのテスト撮影状況 スタジオ用の大型ストロボを二灯使用しているが、出力値は (6W+13W) と最小値に近く絞っている iPhone・iPad 撮影ならむしろ小型クリップオンストロボの出力で充分だろう なお A1 は背面マグネットを利用して、ストロボジェネレータ横に置いたスチール製のブックエンドに張り付けている この状態でジェネレータ右側の白い円形の光スレーブ受光部に感知させている



A1 を ON にして iPhone のアプリを立ち上げ、上の画面から Bluetooth を選択

GDBA-F90E、これが A1 で、パスワードの入力を求められたら、「000000」と入力してペアリング完了。Bluetooth でも 80 m の飛距離があるとのこと

フラッシュの設定画面 ABC3 系統 (最大 5 系統) をカメラ側からコントロール可能とのこと